

【目的】男らしさ、女らしさに対する意識は、その時代の社会的・文化的要因によって左右され変化していくものである。一方、この性役割意識と男らしさ、女らしさの表現手段としての服装行動とは大きく関連していると考えられる。本研究はこれら両者の関連を検討することを目的としている。前報までの一連の研究から、服装行動との関連を検討するための性役割意識測定尺度を作成することができ、尺度の妥当性、信頼性について検討した。本報ではこの性役割意識測定尺度を用いて服装行動との関連を検討するための、服装行動測定項目を作成する知見を得るために、「男らしい（女らしい）服装」についての用語をイメージのレベルで収集し、その用語の意味構造について検討を行った。

【方法】第1報で収集した服装イメージ用語の中から、出現頻度が高い、意味内容が明確、「らしさ」と「らしい服装」の共通イメージ用語を含むなどの基準で用語を選択した。さらに関連の既報から得られた用語も加えて63語のイメージ用語を選定した。これら63語（項目）について、男女の学生および社会人計600名の被験者に「男らしい服装（女らしい服装）」には一般にどの程度重要か、SD法、7段階で評定を求めた。得られた評定値をもとに63項目を変数として因子分析することによって、用語の意味構造の検討を行った。

【結果】「男らしい服装」に対する評定値をもとに因子分析を行った結果から、4因子が抽出された。これら4因子は、男らしい服装に期待される機能の下位次元を形成しており、第2報で論じた性役割に対する役割構造との対応がみられた。「女らしい服装」に対する評定値についての因子分析結果からも、ほぼ同様の対応した結果が得られた。